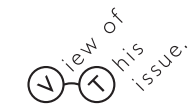


CONTENTS

【特集】  
地域とともに生きる

[ View of This issue ]		
地域とともに生きる	01	
● 理事・副学長   東 晋次		
[ 特集 / 対談 ]		
地域とともに生きる	02-07	
● 三重県知事   野呂昭彦		
● 学長   豊田長康		
司会   理事・副学長   東 晋次		
[ RESEARCH FRONT 1 ]		
物事の複雑な関係性を探り、 自明視された文化を追究する。	08-09	
● 人文学部准教授   森 正人		
[ RESEARCH FRONT 2 ]		
ワーキングメモリとの関連を解明し、 テキスト理解のモデル化を目指す。	10-11	
● 教育学部准教授   滝口圭子		
[ RESEARCH FRONT 3 ]		
世界を視野に、人間と共生する 次世代メカトロ研究を推進。	12-13	
● 大学院工学研究科教授   平井淳之		
[ RESEARCH FRONT 4 ]		
治水や災害予測に貢献する、 降水量の算定に挑み続けて。	14-15	
● 大学院生物資源学研究科教授   葛葉泰久		
[ 連載   CHRONICLE OF MIE VOL.2 文学編 ]		
戦争を描いた小説家、 田村泰次郎。	16-17	
● 人文学部教授   尾西康充		
[ 連載   CHRONICLE OF MIE VOL.2 美術編 ]		
「黄蜀葵 (とろろあおい) に 翡翠 (かわせみ) 図」	18-19	
● 教育学部教授   山口 泰弘		
[ 三重大学の目指す社会連携② ]		
三重大学キャンパス・インキュベータ 三重大学発ベンチャーと 産学連携によるチャレンジを支援。	20	
[ TOPICS ]	21-24	
三重大学の研究と研究活動を通じた社会との連携 日本結晶成長学会第24回論文賞 日本外科学会研究奨励賞 30周年記念風力エネルギー利用シンポジウム「論文ポスター賞」 30周年記念風力エネルギー利用シンポジウム「論文ポスター賞」 「輝かしい今年の梨花人」賞 セメント協会論文賞 日本熱帯農業学会学術賞 Alcon Japan Clinical Award 新自由主義改革と日本経済 循環型社会の構築と農業経営		
2008年1月～5月 三重大学の主な出来事	24	



地域とともに生きる

理事・副学長(企画・評価担当)  
東 晋次

三重大学の基本的な目標は、“地域に根ざし、世界に誇れる  
独自性豊かな教育・研究成果を生み出す”である。それは地  
域という土壌の中で自ら種子となり、根をはりながら花果をもた  
らすことである。大学が、地域に潜む学問や教育上の課題を  
発見してそれに取り組み、その成果は地域の人々によって享  
受される。一般にこれを「地域に貢献する」と称している。

しかし、「地域貢献」と言うと、大学が未だ地域の外側に在る  
関係を暗黙裡に含んでいるように観ぜられる。大学が自らを支  
えてくれる地域と共に歩み、大学の在り方そのものが地域社  
会の目指す方向に合致する、大学が地域に内在する、という  
ところまで行かないと、真の意味で地域に根ざしたことにはな  
らないのではなかろうか。これは難しいけれども、地域圏大学の  
将来の在り方として、心すべき方向性のように思える。

本来、学問とは現実の具体的な問題から出発し、理論化や普  
遍化を経て、現実的課題の解決に向かって実践するものであ  
る。「人間は何のために如何に生きるべきか」という問いに対  
して哲学や倫理学があり、病気や身心の苦痛から解放されたい  
という切実な願いから医学や看護学が生まれる。大学全体  
がその学問や教育を以て、現代日本の地域をとりまく深刻な諸  
問題に向き合い、その蘇生を図り、新たな地域社会の創造に  
向かって実践することが今こそ求められている。

知事と学長との対談を聞きながら心に抱いたのは、「三重大  
学が“地域に根ざす”ことを標榜するのであれば、その役割を  
先陣をきって担う教育研究組織の拡充や改革が必要であろう」  
という想いであった。

ひがししんじ  
歴史学博士  
専門分野は、中国古代史

